

第31回山口県中学校技術・家庭教育研究大会

岩国市・和木町大会報告書

〔生きる力〕をはぐくむ技術・家庭科教育

～実践的・体験的活動を通して自己の変容を  
実感できる授業の構想と展開～



岩国のシロヘビ  
(国の天然記念物)

期 日 平成19年11月15日(木)

会 場 授業・提案 (午前) 岩国市立周東中学校  
全 体 会 (午後) 岩国市立玖珂中学校

主 催 山口県中学校教育研究会

山口県中学校技術・家庭教育研究会

# も く じ

技術分野分科会（研究授業の部）	1
家庭分野分科会（研究授業の部）	4
技術分野A分科会（研究発表の部）	6
技術分野B分科会（研究発表の部）	8
家庭分野A分科会（研究発表の部）	12
家庭分野B分科会（研究発表の部）	14

## 技術分野分科会（研究授業の部）

題材	授業者	司会者	記録者	指導助言者
「マルチラックを製作しよう」	周東中学校 加本 弘紀	附属光中学校 北野 和義	島田中学校 平岡 大	山口大学教育学部 准教授 岡村 吉永 柳井市教育委員会 指導主事 秋本 泰宏

### 1 授業の構想説明と反省

周東中：加本先生

授業はものづくりの製作の中で、作業を効率化し、生徒達に精度の高い作品を完成させる成就感をもたせるため、治具を用いた授業を構想した。初めて治具を用いたが、作品の完成度を高められたと思う。様々な治具を多くの先生に提案してもらい、改良を重ねて授業を行うことができた。

また、授業を行う上で、学年部の先生に TT に入っていたいただいた。TT の先生に進度の遅い生徒の指導についていただいたことで全体の指導がスムーズに進んだ。

### 2 質疑、応答、協議

西岐波中：中村先生 TT の先生が入っていたことが、とても新鮮であり、効果的に写った。どのくらいの頻度で授業に入っているのか、また学校としての取り組みなのかどうか？

周東中：加本先生 TT の先生については、学校全体ではなく、学年としての取り組みで、学年の先生の中で、授業の空いている場合は入ってもらうようにしている。

厚東中：小林先生 自分の経験から、技術など作業の入る授業を一人で行っていると、進度が遅くなったり、行動に目が届かない生徒がでてくる。TT がついたら、指導で一旦授業が止まらなくなった。授業効率がよくなったのではないかと自らの体験から TT は効果があるのではないかと思う。

住吉中：小林先生 完成度の高い作品を作るのが目標だと思うが、今日の授業の前の段階での、のこぎりびきの精度が良かったが、前の段階にも治具を用いたのか？

周東中：加本先生 のこぎりびきの段階から治具を使用した。治具は岩国市内の先生に作っていただき使用した。また、精度を高めるためかんながけを行った。最終的には丸のこを使用して切った。

大殿中：芦田先生 木工用ボンドの使い方でも気になることがあった。多くつけすぎ、はみ出る生徒がいたが、はみでることがないように工夫をしてはどうか？はみ出たボンドを手でとり、そのまま材料を触るなど仕上げが悪くなり、せっかく精度の高いものを目指しているのもったいないと感じた。

周東中：加本先生 濡れ雑巾で拭くように指導したが徹底できていなかったようだ。

徳地中：伊東先生 治具というわけでもないが、接合作業でげんのうの面を遠くからでも指導でき

るように、どちらかの面に色テープを貼っておくなどの工夫があれば、より効果的な指導ができるのではないかと。

山口大：岡村先生 治具ではないが、良い工夫だと思います。また、工作機械の名前などを表示しておく、作業の説明などで効果的です。

東部中：益城先生 授業の導入時にチェック表を使っていたが、自己評価と他者評価ではずれがあるのではないかと。そのずれを上手くつかえるのではないかと。治具の逆側が見えない構造になっているので、治具の改良が必要ではないかと。

周東中：加本先生 自己評価と他者評価のずれは思いつかなかった。前回の授業の確認のためにチェック表を使った。逆側については治具の真ん中に線をひいてあり、合わせられるようになっていたが説明できなかった。

### 3 指導助言

柳井市教育委員会 指導主事 秋本 泰宏先生

技術の授業公開は少ないので、授業公開すること自体に意味がある。特に今回はTTの授業ということで他の教科の先生に実際に授業に加わっていただいたことで、学校内の他教科の先生に技術の授業を見てもらったことに大きな意義があると思います。今回は、ものを正確につくることが目的だったので、他教科の先生方には、その点も理解しやすかったのではないかと思います。TTの授業では、安全に授業も行えるという点も見逃せません。生徒の安全を守るという点で、作業の入る授業でTTを行うというのは良い取り組みでしょう。

また、目的を達成するために治具を用いた点も良かったと思います。ものづくりの授業は25%ぐらいの生徒が嫌いだという統計データがでています。家庭科では中1の時期に嫌いになることが多く、その理由は、面倒、楽しくない、分からないということです。作品の完成度を高めて、生徒のやる気を高める取り組みは必要ではないかと思います。

山口大学教育学部 准教授 岡村 吉永先生

まず、今日の授業の中で、過去の技術の授業との違和感をもたれることがあるとしたら、治具を用いるということではないかと思います。そもそも技術では、製作における技能を身につけさせることに、重点が置かれていたためですが、今の生徒はのこぎり自体を知らないなど、レディネスが十分ではないため、製作に精度を求めるのは非常に酷であると感じています。そこで、技術の授業では、接合であれば、部品同士がずれない方法を教えることが必要ではないかと思います。そこで治具を用いるのですが、治具を安易に使用すると技術の授業ではなくなるので、治具を開発させるなど授業の工夫をする必要があります。できないことをできるようにしてやるということは、子どもの要求に応えるということであり、子どもの変容を促すことができるのではないかと思う。

また、その変容を評価するという点で、自己評価と他者評価を求めることは有効であるが、そこにずれが生じるのであれば、そのずれを埋めることをしなければならないと思います。それは、評価項目が適切であるのかなどになります。

今回の研究への取り組みは大変意義のある取り組みではないかと思います。日々の授業の中で、教材開発などに時間が十分とれないのもわかりますが、引き続き取り組むべき研究だと思います。教材開発のヒントとしては、特許庁のホームページを薦めます。企業の研究者なども利用していますので、ぜひ利用してみてください。



## 家庭分野分科会（研究授業の部）

題 材	授業者	司会者	記録者	指導助言者
「中学生にとっての家族を考えよう」	周東中学校 井上 尚代	附属山口中学校 津村 幸江	附属光中学校 今井 陽子	山口大学教育学部 教授 入江 和夫 山口県教育研修所 研究指導主事 米屋 奈穂子

### 1 授業の構想説明と授業反省

周東中：井上先生

1学期に幼児の心身の発達と家族の関係について学習し、自分の過去を振り返らせ自己の成長をみつめさせることで、自分を育ててくれた家族について考えさせた。3学期は家族、地域へと目を向けるように授業構成を仕組んだ。

昨今、各家庭の状況を取り上げて追究する授業は難しい。そのため、仮想家族の1と2をつくった。いずれ家族をもつ生徒にロールプレイングを通して家族や自分の存在を感じとらせたい。ロールプレイングだけでは深まらない授業になるため、ロールプレイングをきっかけとして考えさせていった。3年間の研究で、生徒の変容については、本時の4時間目だけでなく、各1時間ごとに生徒は変容していった。これにより、生徒が一番身近に感じる家族の存在を見直させていった。生徒が変容していったことは、授業後の感想から伺える。

### 2 質疑、応答、協議

於福中：阿武先生 授業では本時のように生徒の自作のセリフを使用することはなく、テキストの会話文を取り上げることが多い。本時の授業では、家族の1と2どちらの家族になりたいかを選ばせ、その家族に近づけるにはどうしたらよいか考えさせていくとよい。生徒が変容したことはセリフの見直しによって確認できるので、生徒がつくったセリフをみんなで聞きたかった。

萩東中：中井先生 1年生の授業の最初に、親子の会話のセリフを吹き出しの中に入れるようにした。設定はちらかった居間で、母と息子の会話。母親が片付けるように言ったことに対して、息子はどのように答えるか。ロールプレイングでは、母親役を教師が息子役を生徒が演じる。最後を「お母さん、大嫌い」で終わるセリフにし、家を飛び出す設定にする。その場合どのようなものが必要になってくるのか。これにより「自立」ということを考えさせ、日頃、親や家族、家によって自分は守られていることを振り返らせて話しを進めていく。本時の家族1と2の比較をすることで、家族関係が明確になる。

附属山口中：津村先生 授業を終えて生徒のつぶやきから、セリフの裏にある言葉を生徒は言いたかったようである。中井先生の「自立」という言葉について話しを進めてもよい。

小郡中：西田先生 はつらつとし、声も大きくてとてもよかった。3つ質問がある。

- ①教師の支援、実践的・体験的活動の工夫の枠組みは、「ロールプレイングを行わせる。」という～させるという位置ではなく、～考える、～感じる場がよい。「中学生のセリフをどう感じるか」などの型で提案するとよいと思う。

- ②最後のキーワードを家庭の「和（輪）」にせず、「自立」にした意図。
- ③授業形態、グループトークングでの留意点。

周東中：井上先生

- ①の質問については、実践的・体験的活動の工夫の枠組みは、～どう感じるか、などの型の所がよいと思う。
- ②の質問については、将来の自分の家族づくりのために「自立」に力をいれた。
- ③の質問について、このような形態ではめったにやらない。本日は各中学校からの掲示物が多数あり、周囲に目が奪われて、授業に集中できない生徒もいたように思われる。

### 3 指導助言

山口県教育研修所 米屋菜穂子先生

家族関係のロールプレイングは難しいところであるが、よい授業を提案してもらった。生徒と教師とのやりとりがよかった。班長が班の意見をまとめて発表するという教師の指示に対してすぐ対応できるのは、日頃からの指導ができていたり生徒が自覚をもって行動しているからである。家族の問題はこれからも重要視される。セリフの家族1「僕たちでやっておくから」家族2「はぁ？嫌だ」を対比させることでわかりやすかった。複線として、家事は家族全員の仕事であることを生徒から引き出すのが苦しかった。

家族は次の物理的な二つに分けられる。一つ目はお互いに思いやり、理解し合い支え合うという心の持ち方であり、二つ目は家庭の仕事、家族全員が仕事を分担して行うことであり、これを実践につなげることができれば、パーフェクトである。「自立」について学習し、自分の行動力につなげる授業にすること。生徒の中には、今日の授業で「言葉の大切さ」が実感できたと思う。

山口大学教育学部教授 入江和夫先生

生徒が意欲をもって授業に臨んでいた。大学、中学生ともに自分の仕事であるという意識がない。母親が家事をするのは当然と感じている。家庭の中での仕事の役割をすることは、責任感を育てることになり、自分が仕事をするに対して自覚し、自分の仕事として認識する。

洗濯物を取り込む場面を設定し、セリフを考えさせると実際は、家族1のようなセリフにはならない。

家の中で仕事をこなすことで責任感を育てることができる。そして、自分の仕事が評価されることになる。このようなことがわかれば、手伝うという言葉に対して生徒は「おかしい」と感じる。生徒からこの言葉を出させたい。これにより、自立だけでなく、助け合うこと、協力することの必然性を感じさせる。家の中での仕事を意識させ家の中で役立つことは、社会の中で役立つことにつながる。家庭の中で学習したことが、社会の中で生かされる。「自立」とは家族を助けるだけではなく、学校・社会で役立つ人間になることである。



大学生135名に、小・中・高等学校での家庭科で何を教えてもらったかを聞くと、2名だけ家族関係と答えた。家族とのコミュニケーションは生きるうえで大切なことであるため、大学で力を入れている。家庭科でも意識をして授業を進めていくことが大切である。

## 技術分野 A 分科会（研究発表の部）

提案内容	発表者	司会者	記録者	指導助言者
「のこぎり引き」(のこぎり引き学習装置の利用)	西岐波中学校 中村 一文	深川中学校 矢田部敏夫	阿知須中学校 長岡 好浩	山口大学教育学部 准教授 岡村 吉永
「写真立ての製作」	柳井西中学校 弘中 誠			
「空き缶リサイクルレターラックの製作」	末武中学校 佐伯 博明			

### 1 授業の構想説明

西岐波中：中村先生

この題材は、正しいのこぎりびきの技能を身につけさせることをねらいとしている。そのための手だてとして『のこぎりびき学習装置』を用いて自分の動作をより客観的にとらえさせ自己評価につなげている。自分の体を理論に従って動かすことの重要性に気づいたときが、生徒が自己の変容を実感できる場面となる。他の工具を使用するときには技能に対する理論的な視点が生かされることから「生活課題に汎用性の高い題材」である。

柳井西中：弘中先生

この題材は、技術分野 A「技術とものづくり」の導入として用いる。ものづくりの一通りの流れを体験させることによって、ものづくりの基礎的な知識と技能を習得させると同時に、完成に至る段取りを理解させることをねらいとしている。生徒がそのねらいどおりに、製品を初めて自分の力で完成させたときが自己の変容を実感する場面となる。また一般的なものづくりの製作工程を「モデル化」した題材ととらえることができる。

末武中：佐伯先生

この題材は第 2 学年で取り組む。木材加工に併せて金属加工の工程を含むことから、多くの学習課題を設定することができ「生活課題に汎用性が高い」といえる。また生徒にとっては適度な難易度であると同時に、自分の思いを作品に反映させオリジナリティの高い作品を製作できることで、ものづくりへの意欲を高めることに成功している。さらにリサイクル材料を活用することで、生徒は資源の有効利用という視点を持つことができる。

### 2 質疑、応答、協議

湯田中：横沼先生      自分も学習装置を活用したいが、その方法は？生徒が右利き、左利きで設定等  
 が変わってくると思われるがその対応は？前後の力のかかり方を表示できるの  
 はわかるが、左右の力のかかり方は表示できるのか？以上 3 点を質問したい。

西岐波中：中村先生      装置は 20,000 円程度かかる。業者に設計図をわたして製作を依頼できる。  
 ソフトは配布した CD 内にある。左利きの生徒には、個別に机を用意するなどして  
 対応している。また、データのグラフ表示は逆になる。左右の力をデータと



して取り出すことはできない。左右のずれは目で見てわかると考えている。

住吉中：河村先生 学習装置を活用することで、生徒の製作の精度はどうか？

西岐波中：中村先生 のこぎり引き技術の向上を確認することはできるが、その技術と製作の精度についてはデータがない。ただ、うまくのこぎり引きができるようになり、技術を楽しんでいる生徒が増えたのは確かなことである。

柳井西中：弘中先生 時間の関係で技術を完璧に身につけさせることは不可能だと思うが、目標を明確に意識させることができるので、製作の技術も向上したと思われる。

・学習装置はとても有効なものと思われるが、工具の整備状態が結果に大きく影響してくるのではないかと？

西岐波中：中村先生 装置を活用する際は、必ず新品ののこぎりを使う。実際の製作には古いのこぎりを使うようにしている。

・オリジナル教材を活用することで苦心することは？

柳井西中：弘中先生 たしかに、個別に準備するには手間がかかるが、製作費は200円かからない程度でできる。

### 3 指導助言

山口大学教育学部准教授 岡村 吉永

のこぎり引き学習装置は、3日間程度の講習が開催できれば活用できるようになる。しかし、常に使用しなくても、傾向を指導者が把握することで、生徒に適切な支援ができるようになることが大切。職人技を師匠が弟子に言葉で詳しく教えないのは、すぐ側に見本がいるから。生徒にとっては、教師がその技術を確実に習得していることが大切である。

末武中、佐伯先生の資料にある生徒を感想をみると、「空き缶の模様が違う」ことに改めて気づいていることがわかる。このように、身の回りのものを見直すことは技術科の大切な視点である。

司会者

提案された先生方、岡村准教授、ありがとうございました。



## 技術分野 B 分科会（研究発表の部）

提案内容	発表者	司会者	記録者	指導助言者
「デジタル技術の基礎と情報モラル」	周陽中学校 横山 浩史	萩西中学校 西村 淳	大領中学校 清水 昌志	柳井市教育委員会 指導主事 秋本 泰宏
「からくり Web ページの制作」	島田中学校 平岡 大			

### 1 授業の構想説明

周陽中：横山先生

この題材は、マルチメディア作品の制作に取り組む前に、マルチメディアの活用を可能にしているデジタル情報の特性を理解させ、その危険性に気づかせる活動によって、生活の様々な場面で情報モラル・マナーを考えられるようになることをねらいとしている。その手だてとして、デジタル情報とアナログ情報の違いを「コピー」という行為に焦点化し比較させる。したがってこの題材は「生活事象をモデル化」して取り上げたものであり、生徒が普段行っているレンタル作品のコピーが、その取り扱い方によっては違法となることに気づくときが、自己の変容を実感する場面となる。

島田中：平岡先生

この題材は、アニメーションを取り入れた Web ページを制作することで、マルチメディアを活用した情報発信のしくみが理解できることをねらいとしている。アニメーション作成に JavaScript を用いることでプログラミングの要素にも触れることができ、コンピュータのはたらきを多くの視点から学ぶことができるので「生活課題に汎用性が高い」題材である。

### 2 質疑、応答、協議

防府支部 牟礼中学校 高井先生

アナログの曖昧さとデジタルの明確さを、生徒にどのように理解させるかということが自分の課題である。横山先生の提案を参考にして、デジタルの明確さを生徒に伝えることができると感じた。次は質問だが、からくり Web ページにはどの程度 JavaScript を使っているのか。アニメーション制作なら JavaScript よりも flash の方が良いのではないか。

島田中 平岡先生

光市のパソコン使用規定が関係している。光市のパソコンで利用可能なソフトウェアは、全て市が管理している。各校のパソコン担当が勝手に設定を変えることは困難である。質問にある flash アニメーションを作るには、高価な専用ソフトウェアが必要であるが、本市ではこれの導入が難しい。そこで、新たにソフトウェアを導入することなく、この機能を利用するために JavaScript を選択した。これは、自己研修により簡単に使えるようになる。また、多くの Web ページで JavaScript が利用されている。もし、JavaScript が動作しない場合は、ブラウザの設定で JavaScript をオンにするだけで動作する。

JavaScript の例として timeout 関数を説明する。この関数は、現在時を取得することができるので、午前と午後で違う画像を表示させることができる。このような関数を勉強すれば、様々なことに応用できる。BASIC でも関数を使えるが、今のパソコン環境では JavaScript の方が身近だといえる。

周南支部 菊川中 西村先生

JavaScript を使った授業において、生徒の反応はどうか。

島田中 平岡先生

JavaScript を用いたプログラムに関しては、ソースを見ただけで拒絶反応を示す生徒もいた。逆に、意欲的に取り組む生徒もいた。しかし、アニメーションの元となる画の制作は、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んだ。今回はアニメーションづくりによって興味を湧かせることで、プログラムに対する意欲・関心を高めていった。

実際にプログラムを考えさせる場面では、参考となるプログラムを生徒に配布し、自分なりにソースを改良させた。プログラムを最初から入力させることも考えたが、プログラムに拒否反応を示す生徒がいることも考慮してやめた。授業時の留意点としては、大文字・小文字を区別して入力することや、保存時のファイル名を間違わないことである。

実際の授業では、4 コマのアニメーションづくりから始めた。できたら内容を深めたりコマ数を増やしたりさせた。苦手な生徒も、4 コマの起承転結アニメーションはつくりあげた。

山口支部 宮野中 児玉先生

横山先生の授業では、最初に手書きでコピーさせる場面を仕組まれていた。このようなパソコンを使わない授業をするときの生徒の反応はどうか。

周陽中 横山先生

教室で授業を行った。生徒は2年生後半の美術でレタリングを習う。その時と同様に、熱心に黙々とやっていた。生徒の食いつきは良かった。この題材は3年目になるが、良い反応である。

司会者

技術分野 B (情報とコンピュータ) で提案いただいたが、この分野では情報モラルについて本教科の授業の中でどこまで指導していくかが問題である。各校の取り組みはどうか。

岩国支部 平田中 浅上先生

難しいプログラミング言語は知らないが、簡単なマクロなら生徒につくらせた経験がある。しかし、それをどう現実に応用させるのか、生徒にイメージさせられなかった。また、勤務校で抱えている問題は、2人で1台のパソコンを使わなければならないことである。作品を作らせる時間が確保できないので、基本的な内容を押さえる程度になっている。

情報モラルについては、生徒が被害者にならないように指導している。基本的な内容として、被害の種類や、詐欺師の攻撃方法例などを教えている。警察サイトでインターネット詐欺の疑似体験が可能であり、利用している。また、生徒は

ウイルス対策はしているが、スパイウェア対策は理解していない。

司会者

2人で1台のパソコンを使って授業をした経験を教えてほしい。

岩国支部 和木中学校 山田先生

最初の頃は生徒に2人に1台が当たり前であった。一人が操作し、もう一人が見ているだけでも楽しい時代であった。困ったと言うことはなかった。

大島支部 久賀中 山本先生

平成3年にパソコンが導入されて、2人に1台の時代を過ごしたので、特別違和感がなかった。但し、評価の段階では困った。その後、校舎立て替えに伴い、1人1台となった。

司会者

ハード面だけでなく、情報モラルや提案についてご意見をいただきたい。

大島支部 久賀中 山本先生

情報モラルについて、技術科の視点からの発表だったので参考になった。

プログラム言語について迷っている。今は BASIC を使用しているが、今後 BASIC 言語を使っていくことはないと思われるので、javascript は参考になった。

プログラム言語をどのように生活に汎用させていくかが問題である。ある生徒は、プログラムに興味を持って高等専門学校に進学した。

JavaScript はC言語に近いので、今後これに取り組んだ方が良いのかと考える。

技術科で取り上げる題材は、どれだけ一般社会で汎用性をもつものであるか見極めることが大事である。

秋本指導主事

ラジオで言っていたことだが、近年、技術開発現場では、生き物の機能に注目している。例えば、ヤモリが天井から落ちないことや、寒くなると葉が落ちることなどである。また、カタツムリの殻が、より汚れを落とす製品の開発に活かされている。

ガソリンスタンドで、軽と表示されているので軽自動車に軽油を入れて動かなくなつた事例がある。車の燃料は、ハイオク、レギュラー、軽油、また、電気、LPガスと増えている。先端の技術者と一般の技術の格差が広がっている。

新学習指導要領では、情報モラルやプログラミングと制御が中心となる。タイピングやワープロなどは前提となる技術になる。以前、文部科学省で情報活用能力について定義された。それは、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」に分けられた。その中で、横山先生が提案された情報モラルを身につける内容は、「情報社会に参画する態度」に位置づけられる。技術科だけで情報モラルを身につけるのではなく、社会科や小学校の道徳教育など、他教科や他校種との連携が重要である。

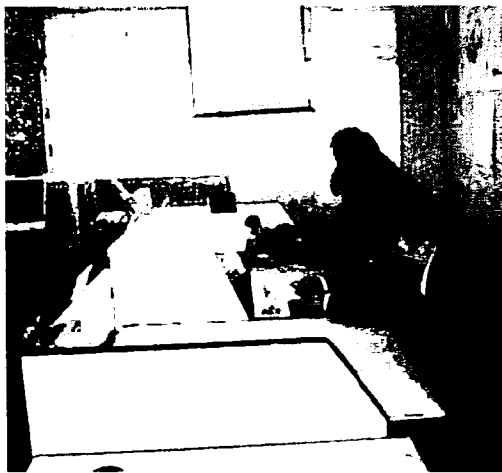
平岡先生が提案された Web アニメーションの制作など、ダイナミックさをもつ

た課題に対して生徒は興味をもちやすい。プログラムを利用した自動化と制御は異なるものである。画面の制御は、プログラミングで行うのが適切である。また、アニメーションの制作は評価が難しい。生徒は美しい画で描かれたアニメーションを良い作品ととらえるが、実際には、それが合理的なプログラムであるか、なぜ画の表示順や表示時間などを変えたのかということが重要である。それらは、制約を加えた課題を提示することで、評価しやすくなる。

他の先生方も参考にされたい。

司会者

提案された先生方、秋本指導主事、ありがとうございました。



## 家庭分野A分科会（研究発表の部）

提案内容	発表者	司会者	記録者	指導助言者
「衣服の手入れと補修」	於福中学校 阿武 福子	柳井中学校 鳥枝 徳子	秋芳南中学校 松永衣美子	山口県教育研修所 研究指導主事 米屋菜穂子
「わたしたちの豊かな食生活」	厚南中学校 西村由紀子			

### 1 授業の構想説明

提案では、生徒の力を導き出すための工夫として、一人ひとりに実物標本を渡す。布にしるしつけをする。実物見本を全生徒に提示する。などの工夫をしていた。

柳井中では、4人グループで実習を行い一人一人に役割を与えている。そののひとつである、スモールティーチャーが、教師師範をみて班の生徒に教えるという工夫をしている。各校では、どのように生徒の力を導き出すための工夫を実施しているだろうか。

### 2 質疑、応答、協議

柳井南中：鮎川先生 生徒に縫い方を理解させるために、拡大布と針を使ったこともある。しかしそれだけで理解させようとするのは難しい。生徒が実際に行う向きとあわせて、折り目が手前になるようにして生徒に見せている。この師範で3分の1の生徒が理解する。まだわからない人は師範をもう一度見せる。生徒が理解できたと実感できるまで繰り返し師範して教える方法をとった。

また、指導の際の注意点は、①折り目が手前②長針を使う③1度に2針すくう④すくってから針をぬくなどである。そして、20センチ縫ったら教師に見せる。それにより、注意点に即したアドバイスを与えることができる。このように特に絶対評価になってからは、こまめにアドバイスを行い、評価する前に改善点を指摘し、観点Cの生徒を出さないように指導している。

地産地消の内容は切り込んで学習させてみたいが、なかなか難しく感じていた。生産から購入、調理計画、実習と一連の流れができておりすばらしいと思う。その中で、山口県のサイトを使って授業に取り組んでいた。とても興味のわくサイトであるので、自分もこのサイトを利用した調べ学習を行ったことがある。提案の中ではこのサイトを利用して、県内各地の産物を白地図にまとめたところが、生徒にわかりやすく楽しんで学習に取り組めておりすばらしいと感じた。白地図を利用した授業については、どれくらいの時間がかかったのだろうか。

厚南中：西村由紀子 1時間つかった。切つてのりで貼る作業をするので、時間もかかる。シールになるとうれしい。保護者会で実施した学級があるが、生徒が保護者に聞きながら作業したり、保護者も喜んで作業したりと好評であった。

柳井南中：鮎川先生 今回の取り組みから、県内産の愛着を感じた。来年度参考にしてみたいと思った。商品の選択についての生徒の話し合い活動のビデオを見ていると、生徒同士

の意見交換が大変活発であった。話し合い活動については、市教研などで取り組んでいるのか。常盤中学校は学校の取り組みとして、話し合い学習に近年継続的に取り組んでいる。

### 3 指導助言

山口県教育研修所 研修指導主事 米屋奈穂子先生

実践意欲につながる題材であるところがすばらしい。まつり縫いは、生活の中でも生徒自身でやってほしい課題である。この生活に身近な実践性の高い題材に絞っているところがよい。そして生徒が扱う素材をいろいろな種類の布（サージなど）に変えて、毎日着用しているズボンが破れたときの感覚を感じさせたいところでもある。遊び着には補修の緊急性がないことが多いが、制服やスーツなどのフォーマルの衣服素材には緊急性が高い。その素材の体験をすることはとても意義深いことである。

また、教材開発については、生徒の理解につながる教材づくりが意欲的にされている。しるしつけなど大変な作業であったと思われる。その情熱が生徒にきつとつながるものであると感じた。

そして、まつり縫いをする際の布の持ち方、針の刺し方などについては、本当の専門的な縫い方を教える必要もある。スピード、すくい目の本物を見せる経験もあるとよい。学習プリントなどから、生徒の意識の変容や実際に生活に生かそうという気持ちの分析までされていた。

靴下の洗濯実習もされていたが、他にも生徒の身近な汚れとして血液、運動靴の泥、カッターシャツのえり垢なども考えられる。それらの汚れを最初にみせておき、最後に学習したことを生かせばこんなにきれいになると見せる手立ても考えられる。衣生活の領域は、学習内容が生活に生かされることに自覚を持たせることのできる領域である。

地産地消の内容は、時間的にも経済的にも取り組みにくい題材であるがよく取り組まれていた。また既習内容が生かされていたり保護者とともに取り組んだりすることでより効果の上げた取り組みであった。この学習は地域産業に関わる授業であり、キャリア教育にも関わる授業であった。家庭以外とも連動できる内容であった。安全安心について、また生産者の顔がわかる仕事について考えるきっかけともなっただろう。

また健康と何を引き換えにするか、お金を借しんで健康を損なうという考え方を变えるのが食育ならば、環境などの視点を入れるという考えもあるだろう。環境の視点を入れるならば、社会や理科との既習内容の活用や他教科との連携をとるとよい。

今後は、家庭との連携および家庭への情報発信についても意識するとよい。食生活を家族でよりよいものにするものができるとういだろう。

司会者

提案された先生方、米屋研究指導主事、ありがとうございました。



## 家庭分野B分科会（研究発表の部）

提案内容	発表者	司会者	記録者	指導助言者
「わたしたちの成長」	大殿中学校 佐伯 泰子	萩東中学校 中井 克美	浅江中学校 船田 敦子	山口大学教育学部 教授 入江和夫
「幼児との交流」	豊洋中学校 安村 悦子			

### 1 授業の構想説明

豊洋中：安村先生

前年度所属していた提案した夢が丘中学校の場合、特色ある学校づくりとして、ボランティア室が設置しており、そこに所属しているコーディネータを通じて、実習の依頼をした。

実習までに3度保育園へ訪問し、打ち合わせを重ねて計画を立てた。幼児とふれあう体験のない中学生に幼児とのふれあう体験をさせたいとお願いした。また、「幼児がかわいい、自分にもこんな時があったんだ」と実感させたいという願いを伝え、承諾してもらった。さらに、こういうふれあいをしたいと伝えたり、幼児のことに詳しい保育士に、幼児との出会いの場面でどうすればよいか教わったり、製作している幼児のおもちゃについて生徒にアドバイスしてもらったりした。

また、初めての試みでもあり、時期的な問題もあり、3クラスすべて実施することは難しかった。さらに、幼児と1対1で密に接してほしいという教師側の願いもあり、3クラス中から1クラスだけピックアップして、幼児とのふれあい体験を訪問せず、幼児を中学校に迎えて実施した。

- ・大殿中学校では、保育園との学習の場をどのようにコーディネートされているか。

大殿中：佐伯先生

園長が変わり、すんなりと事が運ばず、一度は断られた。校長を通してお願いをすることにより、理解していただけて、承諾してもらえた。しかし、今後は、安全面においても実施するには厳しい面がある。

### 2 質疑、応答、協議

小郡中：西田先生 小郡中は、7クラスあり、保育園に連れて行くにも難しい。学校に園児を招く方法もいいと思うが、1クラスだけピックアップすると、学習が不公平になる。保育園との学習には課題があり、思案中である。

- ・保育園実習を他にされている学校は、様子を聞かせてほしい。

長府中：金弘先生 前年度所属していた下関市立名陵中学校には、近隣に保育園があり、幼児とのかかわりは多い。中でも、総合的な学習の時間の枠で、訪問することが多い。2年時の夏休みには3日間、職場体験を実施し、3年時には、福祉体験として保育園や老人ホームで実習するので、保育園で実習した経験のある生徒が多く、お互いに知り合った仲で、いつでも行ってもいい体制が整っている。

家庭分野では、2年時に幼児の成長・遊び、3年時には、家族関係を学習している。3年2学期には、おもちゃをつくって保育園に持っていつている。3・4校時の2コマを実習の時間にあてている。この時間帯は、幼児の食事の風景を見ることができ、年齢に応じた生活行動の違いを観察することができ、2年時に学



んだ幼児の成長を復習することができる。

今年度は、転勤し、学級数が多く、保育園・幼稚園が近くにない。生徒の実態、地域的な問題から、幼児とのふれあいよりも、家族関係を重視して指導していきたいと考えている。こういう家庭を築きたいという夢を描かせてから、保育園実習ができたかと考えているが、実施することに非常に迷っている。家族関係を重視し、それを生徒に教えていくことは、家庭科教員にとって大事なこと。学校、地域性、生徒がどんな環境で育ったかによって指導内容も変わってくるだろう。

- ・保育園実習を行う基盤があれば、幼児とふれあい体験は、教育的効果も望めることが提案の中でもわかるけれども、現実的には難しいものである。幼児とのふれあいの代案になるものが、お持ちであれば、教えていただきたい。

大殿中：佐伯先生 昨年度の母子手帳に記載されていたチャイルドマスクの型紙を用いて、疑似体験を行った。条例までつくったが、ふれあいまで実現しなかった。

- ・その型紙は、開隆堂の学習プリントにも記載されています。

山口大：入江教授 学習の中で、劇的に生徒が変容したところは、どのようなところだったのか。

大殿中：佐伯先生 学習前は、幼児に対してマイナスイメージをもっていた。好きになれとは指導しないが、幼児に関心をもとうということで学習をスタートさせた。身近な教師の子どもが映ったビデオを見せるなど、1時間に一つは生徒が喜ぶような教材を準備した。生徒の様子を見ながら学習を進めていったが、やはり、チャイルドマスクを活用した学習では、劇的に意識が変わった。その他に、教師の子どもの絵を借りて、それを生徒に見せることで、幼児の個人差、性差、同じ親から生まれた子どもでも違いがあることに気づくことができた。印象に残るとたくさん感想を書くので、生徒の変容はよくわかった。

山口大：入江教授 親に対するアンケートは、教材としておもしろい。中学生が、自分が幼児だった時も、お父さんやお母さんもそうだったのだとわかり、ピタッとときそうで、とてもいい教材だと思う。

### 3 指導助言

山口大学教育学部教授 入江和夫先生

中学生は、思春期なので親と疎遠になり、離れていく。離れていくの親子の距離を保っている。そういった中で、保育の学習は、自分を育ててくれた環境を理解する、幼児の理解を通して自分と今の親とのかかわりを考えていくことができる。今、家族とうまくいかないということがあっても、安定する基盤となるように。核家族で、きょうだいがいない、おじいちゃん、おばあちゃんがないといった家庭が多い中で、異年齢の子どもとかかわることは大事なことである。同質の子どもとかかわることが多い、一人にいるということが多いということになれば、やはり、自分では成長できない。下関支部の提案の中にもあったが、「幼児とのふれあいに最初は参加しなかったが、やっていくうちに子どもと遊ぶようになった」という生徒がいたが、まさにこの教材の醍醐味。生の幼児とかかわることの大きな効果ではないだろうか。

今の子どもは、孤立化している。コミュニケーションしたくない、家族もあまりいない。キーワードとして、孤立化している、一人にいることが多い。だから、逆に、人とかかわらせていかなければならない。人とかかわることの大切さを理解させていかなければならない。社会に出れば、人

とかかわっていかなければならない。自分と違ったものの考え方を理解していかなければならない。  
人とかかわっていく、異年齢とかかわっていくということは重要で、生きる力の基盤になる。

司会者

提案された先生方、入江教授、ありがとうございました。

